○近畿大学大学院学則

昭和27年４月１日
令和８年４月１日改正

別記

近畿大学大学院　研究科・専攻の教育・研究の目的について

【近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」】

近畿大学学園は、「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的として掲げています。

この建学の精神と教育の目的に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標に沿って、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しています。

学生の皆さんには、上記の建学の精神と教育の目的を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最もふさわしい将来設計をされることを願っています。

【法学研究科の教育・研究の目的について】

現代の法学及び政治学の分野においては、その根底に横たわる重要問題や最先端の内容を教授・研究し、幅広い基盤的な専門知識・考え方を修得するとともに、各研究分野における応用力を身につけ、国際社会、国家または地域社会の発展に向けて、実際に指導的な役割を果たし得る多種多様な専門家を養成が望まれます。

そこで法学研究科では、近畿大学の教育目標のもと、法学及び政治学の各分野における高度な専門能力を養成し、現代社会の法的政治的諸問題を解決していくための専門的な活動を行うことができる能力を涵養することを目的として、密度の高い内容のカリキュラムを組んでいます。このカリキュラムでは、専攻分野の学識を深め、さらに各分野の学識を、理論的・実証的研究によって深める研究活動を可能にします。そして、養成された人材は、法学及び政治学の各分野において専攻する分野における自立した研究者として、または社会及び時代のニーズに適合した高度の専門性を必要とする職業人（実務家）や、次世代の法学教育を担いうる人材として活躍することが期待されます。

【商学研究科の教育・研究の目的について】

商学研究科の教育・研究の目的は、著しく変化する現代の社会と経済、それを形成する技術基盤にいち早く順応し、国内外のビジネス活動に必要な「高度な専門知識と実践的即応力」を備えた研究者や高度専門職業人を養成することです。そのために、「高度な論理的思考力」や「未来に通じた深い洞察力」を身につけ、「実践的でかつ課題解決能力」に秀でた持続可能な社会への貢献ができる人材育成のための教育・研究を行います。

このように商学研究科としては、研究者や高度専門職業人の養成を推進し、具体的には、以下の分野で活躍する「未来志向の実学教育と人格の陶冶」の精神を身につけた人材を輩出します。

①高度な専門的知識・能力を有し、創造性に富んだ研究者、大学の教員（大学院博士課程への進学者）。
②高度な専門的知識と実践力を身につけた実業家、経営コンサルタント、中小企業診断士、税理士、公認会計士。
③専門職として高度な情報分析力・課題解決能力と国際性を備えた企業人、職業会計人、公務員、国税専門官。
④教科に関する専門的知識や語学力、指導力を備えた中等教育における教員。
⑤専門的知識や企画力、創造力、マネジメント能力をもつＮＧＯ／ＮＰＯの職員、各領域でのコーディネーター。

【経済学研究科の教育・研究の目的について】

現代社会では消費者や企業、政府など様々な主体がそれぞれの判断に基づいて経済活動を行っています。経済についての解決すべき問題は数多く残されています。経済学研究科では、経済に関するデータや理論、制度や歴史の知見を活用し、経済問題の解決を目指します。理論・計量分析だけではなく、ＥＢＰＭ（Ｅｖｉｄｅｎｃｅ－Ｂａｓｅｄ　Ｐｏｌｉｃｙ　Ｍａｋｉｎｇ：　エビデンスに基づく政策立案）、経済実験（神経科学的実験を含む）、フィールド調査、文献・史料解読といった分野

で先端の研究に携わるバラエティー溢れる研究者が、教員として揃い教育組織が構築されています。
これによって、本学位プログラムでは、このような教育組織を活用し、様々な角度からアプローチする経済学の専門家を養成しています。そして、養成された人材は、経済に関する課題を主体的に発見解決し、実社会で活躍することが期待されます。

【総合理工学研究科の教育・研究の目的について】

総合理工学研究科は、科学と技術が融合する理工学の領域において、先進的かつ独創的な教育・研究を通じて、科学技術の発展、産業の創生を推進し、持続可能な社会の発展と人類の知の創造に貢献することを教育・研究理念とします。

この理念のもと、総合理工学研究科では、専門的研究活動を実践するための特別研究、理工学の広範囲な分野を網羅した専門科目群、研究領域の学際化等に柔軟に対応するための学際科目、グローバル社会で生きる力を育む共通科目を開講しています。高度な教育・研究の実践を通じて、専攻分野における深い知識と応用力を持ち、語学力、企画力、デザイン思考力、情報処理力、指導力、交渉力そして論理的なプレゼンテーション力等､多彩な能力をもった人材の育成を目指します｡これを踏まえ、博士前期課程では専攻分野に立脚した多彩な能力を有する技術者･研究者､博士後期課程においては、理工学の専門分野で新たな研究領域を切り開く能力を有する研究者を育成します。

【建築学研究科の教育・研究の目的について】

建築や都市に関する高度かつ領域横断的な知識を身につけ、国際社会および地域社会で建築や都市環境の創造、運営、再生において建築家、都市計画家、建築技術者および事業者として主導的かつ指導的役割を果たせる人材を養成する教育・研究を行います。本研究科の修了生は建築デザイン、建築計画、都市計画、環境工学、材料工学、構造工学の高度な知識と技術を用いて、社会課題の解決や持続的な建築や都市の環境づくりに創造的に取り組む能力と、それらを活かし実践するために必要なコミュニケーション力や社会的責任感を持った人材として、次世代の建築や都市分野で活躍することが期待されます。

【情報学研究科の教育・研究の目的について】

国が掲げる「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」を実現するために、高度で広範な専門知識と倫理観に基づき､自ら考え行動することで､新たな知見や価値を生み出すことができる技術者や研究者を養成する。そのために、幅広い課題に対処できる高い情報収集・分析能力、課題に対する問題解決能力、専門知識に基づいて自らの思考を説明し妥当性を議論できる論理的かつ批判的思考力、グローバルな情報発信能力の修得を目指す。

【薬学研究科・専攻の教育・研究の目的について】

近畿大学大学院薬学研究科では、医療薬学科（６年制）を基盤とする博士課程である「薬学専攻博士課程」と、創薬科学科（４年制）を基盤とする「薬科学専攻博士前期・後期課程」を設置し、薬学に関する独創的な研究を通して、卓越した洞察力と問題解決能力によって将来多様な薬学領域において指導的立場で活躍できる人材を養成・輩出することを理念としています。そして、基礎から臨床に及ぶ多様な薬学領域において、指導的立場で活躍し、薬学的観点から生命科学の進歩に貢献しうる人材の育成を目指しています。

「薬学専攻」では、薬剤師として医療に従事するだけでなく、研究者としての観点から新しい医薬品の研究や臨床開発、行政等幅広い分野で活躍するファーマシスト・サイエンティストを輩出していくことを念頭に置いています。さらに、臨床薬学研究の実績を有する国立循環器病研究センター、近畿大学病院、近畿大学奈良病院、大阪公立大学医学部附属病院、堺市立総合医療センター、さらにはスギ薬局と連携し、連携大学院方式を採用することで、大学院生の臨床能力および識見の向上や高度な医療人の養成を試み、様々な分野の臨床研究に従事することのできる薬剤師を育成します。

「薬科学専攻」では、薬学的観点から生命科学の進歩に貢献しうる人材を育成し、将来大学や公的機関などアカデミアでは最先端の創薬研究を展開し、企業の研究者としては臨床開発の最前線に立てる人材の輩出を目指します。また、ネイティブスピーカーの教員による科学英語コミュニケーション先進演習や、英語による研究成果発表に関連する演習を設け、グローバルに活躍できる人材の育成を目指します。

【総合文化研究科の教育・研究の目的について】

人文・社会・自然の諸科学を横断し、各分野の知識を別々に身につけるのではなく、それらが共通

の基盤の上に成立していることを知り、考える力や創造する力を総合文化研究科では養います。情報が飛び交い、複雑化していく現代にあって、総合的な視野を獲得することは、現実の諸問題に立ち向かい、解決を模索しつつ、理想を追求していくという本学の「実学」「未来志向」という教育理念を実践するものです。

そのために個々の学問分野の知識を学ぶことがまず重視され、その基礎のうえに学際的な交流が進められます。この過程を通じて、より高められた情報収集能力、分析能力、企画能力、論理展開能力をもち、クリエイティヴな文化を発信しつつ国際社会および地域社会に貢献していく以下のような人材の育成をめざします。

①専門的知識と研究・調査能力を有する研究者、大学教員。
②専門的知識と実践力を身につけた批評家、編集者、ジャーナリスト、学芸員、都市計画コンサルタント、臨床心理士、産業カウンセラー等。
③教科に関する専門的知識や語学力、指導力を備えた中等教育における教員
④専門職として高度な語学力と国際性をもつ企業人、公務員。
⑤専門的知識や企画力、創造力をもつＮＧＯ／ＮＰＯの職員、各領域でのコーディネーター。

【農学研究科の教育・研究の目的について】

21世紀中期に地球上の人口が100億に達すると推定される中にあって、食料生産の飛躍的増大が、人類の生存を保障するための最優先課題となってきています。また、地球温暖化に象徴される地球環境の破壊、資源の枯渇など人類の生存を脅かす事態が加速度的に進行しています。さらに、農林水産業が直面している多様な問題は時代背景や置かれた状況に応じて臨機応変に解決することが求められています。

そこで、農学研究科では、このような地球規模での社会問題の解決あるいは、さらなる農林水産業の維持・発展を目的とし、人類の衣食住の質的向上、農林水産資源の開発・蓄積・有効利用、環境修復・保全の科学を進展させるための研究に取り組んでいます。これによって、人類の生存保証を主命題として、生物資源の開発・生産・有効利用に関する、さらには、地球の生物環境保全・修復のような総合領域に関する深い学識と高度な科学技術を持つ目的指向型研究者が養成されます。そして、養成された人材は、修得した研究能力を発揮できる専門業種で即戦力型の研究者・技術者として、あるいは広い視野で問題解決ができる人材として多様な社会で活躍することが期待されます。

【医学研究科の教育・研究の目的について】

本学医学研究科における教育研究の理念と目標には二本の柱があります。うち一本は世界をリードする研究者の教育と養成であり､これまでに基礎･臨床ともに多くの世界的業績が挙げられています。柱の他の一本は研究心・探究心にあふれた臨床医師の養成であり、患者の病態や問題点を高いレベルで察知し、組織・細胞レベル、そして分子レベルまで肉薄することができる、そして従来の画一的・ガイドライン的治療概念にとらわれないで新たな疾患概念や治療体系を打ち出すことのできる、まことの臨床家の育成をめざす目標です。

研究マインドに満ちた医師でありたいという意識は研修医の３～４割が抱いていると言われます。そのニーズにも応えるため社会人入学制度を導入しております。若き医師のニーズに応える教育を行うことも本学医学研究科の理念であります。

教育内容や評価の透明性、カリキュラムの客観性、研修の検証可能性の確保といった視点でカリキュラム改革が行われています。専攻を医学系１本に統合し、全専攻分野を対象とした共通必修講義・演習を設置しています。本講義・演習では、社会人入学者に配慮した時間割を作成し、またＤＶＤ貸し出しやＷｅｂ形式などを利用することにより遠距離からの社会人入学者に対する配慮も行っています。

国内外、特に海外との交流の促進に取り組んでおり、国内他大学の大学院生や海外の研究者を大学院生として毎年受け入れています。

【生物理工学研究科の教育・研究の目的について】

生物理工学研究科では、生物・生体の優れた機能と構造を既存の学問分野である理学・農学・工学・医学の学術的基盤にもとづいて解明し、強固に確立された伝統的分野を基礎とする新しい学際的研究分野を開拓します。その結果を生物・農業・遺伝子・食品・感性・人間・生命・医療・福祉などの各工学技術に応用することで、生物学系と理工学系の科学・技術を融合し、先鋭的かつ革新的な高度最先端技術の開発をめざします。本研究科では、その開発過程において人類の福祉と環境・社会に貢献

する洞察力と想像力、および持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）など自然と共生・共存する人類の文明社会が持つ課題解決を目標とする高い視座を涵養する実学教育、さらには人格の陶冶の精神に立脚した学際的教育を行うことが目的です。これにより、以下のような人材の育成をめざします。
①幅広い教養とコミュニケーション能力を備え、国際社会においてリーダーシップを発揮できる。
②高度な専門知識と方法論、技術によって社会的課題を発見して解決できる。
③柔軟な発想力と実践力を駆使して社会的要求の解決に貢献できる。
④グローバル社会に対応できる高い視座と高度な語学力で情報を収集・分析できる。
⑤高い倫理観に基づいた情報発信ができる。
【システム工学研究科の教育・研究の目的について】
システム工学研究科の教育・研究の目的は、研究者や高度専門職業人としての技術者の育成にあります。
基礎的な原理の理解や複雑な現象の解明、あるいは既存の技術の修得のもと、広い視野に立った工学の知識・技術・方法を身につけ、人間と自然が共存できる社会の構築に寄与することを教育・研究の目標としています。特に、実益的な技術との連結を重視しながら、多分野にわたる広いシステム的思考に基づいて、ますます複雑化する技術課題に、多様な解決策を提言できる研究者や高度専門職業人としての技術者の育成を目指しています。また、人間の快適な生活や福祉に役立つさまざまな製品の開発や生産技術に関して、基礎工学から専門技術までを包含した教育・研究を幅広く展開しています。複雑化を増している工学分野の様々な課題に、広い視野と探究心及び倫理観と先進的な指導力をもって果敢にチャレンジし、国際社会及び地域社会で活躍できる人材を育成します。
具体的な人材像は以下のとおりです。
①高度な工学的専門的知識と研究・調査能力を有する研究者
②高度専門職業人として企業の開発・設計・製造・品質管理等の分野で活躍する技術者
③高度な工学的専門的知識とコミュニケーション能力を有する企業人・教員・公務員
【産業理工学研究科の教育・研究の目的について】
近畿大学の建学の精神と教育の目的に即して､ハードサイエンスとソフトサイエンスの融合のもと、社会に信頼され地球環境に調和する産業科学技術の展開を図り、持続可能な循環型知識基盤社会の発展に貢献することを教育研究の理念としています。この理念のもとに、博士前期課程では、専門領域で核となる知識や技術を修得して基本的な研究能力と問題解決能力を養うとともに、関連する分野の基礎的素養を修得して、循環型知識基盤社会を多様に支えて変化に柔軟に対応できる技術者を養成します。また博士後期課程では、専門性をさらに深化させるとともに、専門領域で解決すべき課題を広く横断的に検討して、高度な専門知識と豊かな学識に裏付けされた知見や技術を新しく創出し、持続可能な循環型知識基盤社会の具現化に貢献できる研究者や専門家を育成します。
本研究科は、生物環境化学コース、電子情報工学コース、社会環境科学コースの３つのコースで構成されています。各コースのディプロマポリシー（学位授与の方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）を設定し、専門分野における研究者・技術者・実務家として活躍できる人材を育成します。
【医学研究科の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
本学医学研究科における教育研究の理念と目標には二本の柱があります。うち一本は世界をリードする研究者の教育と養成であり､これまでに基礎･臨床ともに多くの世界的業績が挙げられています。柱の他の一本は研究心・探究心にあふれた臨床医師の養成であり、患者の病態や問題点を高いレベルで察知し、組織・細胞レベル、そして分子レベルまで肉薄することができる、そして従来の画一的・ガイドライン的治療概念にとらわれないで新たな疾患概念や治療体系を打ち出すことのできる、まことの臨床家の育成をめざす目標です。
平成16年度の新臨床研修制度の導入以降７年目を迎え、日本の医療は崩壊の危機に瀕しています。特に臨床医の即成が一義的に謀られた結果、大学院教育や医師による基礎医学研究は打ち捨てられようとしています。しかし、患者にとってまことの医師は前述の研究マインドに満ちた医師であり、そうでありたいというニーズは厚生労働省の調査によれば研修医の３～４割に依然としてあります。そこで本学ではそのニーズにも応えるために社会人入学制度を臨床系分野にも導入しました。大学院入学者数は新制度により一旦５割程度まで激しく減少しましたが、本年度は旧に復しました。そして、その半数以上がこの社会人入学制度を利用しています。

すべてに格付けを求める市場原理医療の時代を迎えようとしていますが、その中で研究マインドを涵養し、その探究心の証としての博士号を取得している医師は、博士号の無い医師より、臨床家としても当然高く格付けされるようになります。そういう医療制度の流れを理解し、そのニーズに応える教育を行うこともこれからの本学医学研究科の理念であります。

【医学研究科の学習・教育目標】

文部科学省の方針に基づき、本年度から教育内容や評価の透明性、カリキュラムの客観性、研修の検証可能性の確保といった医学研究科教育のカリキュラム改革が行われました。その骨子はこれまでの５系にわかれていた専攻を医学系１本に統合したこと、それにともない共通講義・演習を設置したこと、そしてコースワークを実現したことなどです。

すなわち、これまで指導教員に任され、客観的な検証や評価を受けなかった教育課程に透明性を確保し、研修・研究を検証可能なものにしていく端緒として、今年度より全専攻分野共通の必修として、社会人入学者にも受講可能な時間帯に講義・演習カリキュラムを新設しました。またＤＶＤなどを利用することにより遠距離からの社会人入学者に対する配慮も行っています。

文部科学省から選定された「がんプロフェッショナル養成プラン」におけるコースには、単位互換を含めて７大学の共同大学院教育コースを設置し、共通特論講義・演習も開始されています。このように社会的関心の高い特定医療技術と知識を大学院教育の中で習得させ、さらに博士号を取得させることは、例えば「がん専門の医学博士」は、臨床家としても、臨床指導者としてもより優れた者であるという国民的評価を獲得させるという前述目標に合致し、今後いくつかの分野で同様のコースが設定されようとしています。

【医学専攻のカリキュラム編成上の特色】

一般コースでは前述のように、今年度より全専攻分野共通の必修としての社会人入学者にも受講可能な時間帯に、講義・演習カリキュラムを新設しました。このコースでは研究倫理、個人情報保護と知的財産、研究立案、情報検索、実験検証、統計分析、論文執筆、論文発表などすべての研究者にとっての基本的な知識として11教科が系統的に教育され、出席確認により必修３単位が付与されることになりました。医学研究科の教育課程を重視し、その検証を可能とするコースの設置は、これまで求められてはいたが実現しておらず、今後臨床研究者あるいは専門研究者の質と業績の価値、そして大学院の社会的価値を高いレベルで標準化できると期待されています。

また、必修の実験的・臨床的研究８単位のうち２単位を共通化し、必修とすることとなりましたが、このために各専攻分野が技術の解説と実地訓練を行うコースを設定し、専攻分野にかかわらず大学院生が興味のあるコースを選択し、受講できることとしました。また、医学部共同研究施設の講習会、近畿大学医学会、博士論文公聴会、臨床研修センター主催のイブニングセミナー、医学部、医学研究科、ライフサイエンス研究所主催の学術講演会などにも参加を勧め、それを必修単位にくり込み評価していくことになっています。

がんプロコースにおいては特に社会人入学者が多く、共同講義は関西の６大学の合同講義であるために、足の便の良い大阪市内の会場で開催され、出席率は非常に高い。やはり、時代の先端分野において、専門資格を、しかも医学博士号として、数多くの臨床医師の中から抜きん出て付与されるというコースは、特にこれからの医師格差時代においては大いに魅力のあるものとなります。

【その他の特色】

教育課程を重視し、客観的評価を行うことを目的として今後導入していく予定として、複数教員の担当制、中間発表会実施、学内での複数教員による中間評価、公聴会の活性化など挙げられます。

また、国内外、特に海外との交流の促進、大学院生の短期在外研究の制度化、海外の研究者を大学院生に拡大し、医学研究科として受け入れる制度を整備します。すなわち、がんプロコースですでに実現していますが、一般コースにおいても他大学との単位の互換が国内外で可能とする制度をめざします。

大学院教員の質的改善を目標に、基礎系分野の准教授の確保、非医師の優秀な人材の登用、講師の大学院教員化、大学院教員のＦＤの実施などが企画されています。

【実学社会起業イノベーション学位プログラムの教育・研究の目的について】

現在、持続可能な地球社会への変革のため、大学には、産業構造の変革と社会構造の不可逆的変化の時代に必要となる組織に依存しない自律したアントレプレナーシップを有する人材の養成のみならず、社会実装を具体的に意識した研究実践を背景にした研究者・高度専門職業人のキャリアパスの多

様化からイノベーション創生を社会現場でおこすことのできる人材の養成機能も求められています。

そこで、本学大学院は、研究科等連係課程実施基本組織に基づく新しい学位プログラムを設置することで、既存の学問領域に限定されない学際的な（トランスディシプリナリー）アントレプレナーシップの涵養から、社会課題を主体的に探究し、その解決に向けて挑戦する知識・技術を身につけることで、学際的な学修に裏打ちされた実学的知の社会実装の実現に資する人材を養成します。そして、養成された人材は、本学のイノベーション・エコシステムの構築と発展のみならず、地域社会や国内外のイノベーション・エコシステムの持続的発展に貢献すると期待されます。